

嚢胞性尿管炎の1例

大阪市立大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 前川正信教授)

仲谷 達也, 辻野 孝, 池本 慎一, 田中 寛

山本 啓介, 岸本 武利, 前川 正信

URETERITIS CYSTICA: A CASE REPORT

Tatsuya NAKATANI, Takashi TSUJINO, Shinichi IKEMOTO,
Hiroshi TANAKA, Keisuke YAMAMOTO, Taketoshi KISHIMOTO
and Masanobu MAEKAWA

From the Department of Urology, Osaka City University Medical School
(Director: Prof. M. Maekawa)

This is a case report on a patient with left renal stone and ureteritis cystica. The patient was a 57-year-old male, and he was admitted for a thorough examination of his renal stone. Many sharply-defined radiolucent filling defects were detected in the upper and middle ureter by retrograde pyelography, and he was diagnosed with ureteritis cystica. Since the patient had severe renal function damage, left nephro-ureterectomy was performed. This is the 29th case of pyeloureteritis cystica reported in Japan, and here in its clinical aspects are discussed.

Key words: Ureteritis cystica, Renal stone

緒 言

嚢胞性腎盂尿管炎は内腔を移行上皮で被われた小嚢胞を腎盂・尿管の粘膜下層に形成する稀な疾患である。今回われわれは左腎結石および左無機能腎に合併した嚢胞性尿管炎の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 57歳, 男性, 会社員

主訴: 左腎結石の精査希望

家族歴・既往歴: 特記すべき事項なし

現病歴: 1986年1月に健康診断にて、腹部異常石灰化陰影を指摘されたため、精査希望にて3月31日に当科を受診した。

現症: 身長 160 cm, 体重 63 kg, 血圧 106/74 mmHg. 胸腹部理学的所見に異常は認めなかった。

検査成績: 血液および生化学的検査にて異常を認めず、尿所見は黄色混濁、潜血 (+), 沈渣にて多数の白血球を認め、尿細菌培養にて *E. coli* を検出した。

X線検査所見: KUB では左腎部に一致して 25×18 mm の石灰化陰影を認めた。DIP では右腎よりの造影剤の排泄は良好で、右腎および右尿管に異常を認

めなかったが、左腎よりの造影剤の排泄は認められず、腎陰影も明らかではなかった。RP (Fig. 1) では、腎盂および腎杯は水腎症を呈し、腎盂尿管移行部に狭窄像を認めた。また上部から中部尿管に米粒大の辺縁整な多数の陰影欠損を認めた。digital subtraction angiography では左腎動脈は著明に狭細化し腎内分枝は造影されなかった。

以上の検査結果より、左無機能腎、左腎結石に合併した左嚢胞性尿管炎の術前診断のもとに9月22日に全身麻酔下に左腎尿管全摘除術を施行した。

摘出標本所見: 左腎実質は著明に萎縮し、腎盂内に表面不整、黒褐色の結石を認めた。尿管内腔には直径 2~4 mm の多数の小嚢胞が存在した (Fig. 2)。

病理組織学的所見で小嚢胞は尿管の粘膜下層に存在し、その内腔は伸展された移行上皮からなり、嚢胞周囲の間質にはリンパ球や形質細胞の浸潤をとまなう慢性炎症所見を認めた (Fig. 3)。

以上の所見より本症例は嚢胞性尿管炎であることが確定診断された。

考 察

嚢胞性腎盂尿管炎は稀な疾患であり1761年に Morgagni¹⁾ が報告して以来、1980年の Askari²⁾ の報告



Fig. 1. 逆行性腎盂造影

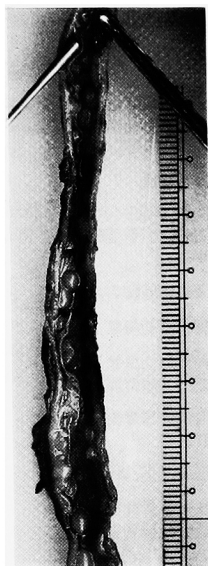


Fig. 2. 摘出標本

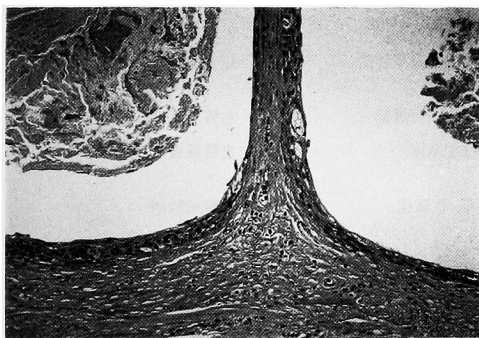


Fig. 3. 組織像 (H.E. 染色, ×200)

まで欧米でも約100例を数えるにすぎない。本疾患における嚢胞形成の機序に関しては、Limbeck (1887) や Brunn (1893) らの上皮細胞巢説が最も有名であるが、これに対して Stirling & Ash³⁾ は mucosal crypt の化生説を唱えている。そのほかビタミンA欠乏や先天性要素を指摘する報告もあり、現在でもなお発生機序に関しては議論のあるところである。

次に本邦における嚢胞性腎盂尿管炎の報告は1968年の桐山⁴⁾の第1例以来、自験例を含めて29例が報告されている (Table 1)。

本邦報告例臨床像:

(1)年齢: 37歳から77歳におよび、60歳以上の症例が17例を占め高齢者に好発する傾向を認める。

(2)性別: 男女比は男性8例、女性21例と女性に多い。

(3)患側: 両側が8例、右側のみ5例、左側のみ16例

である。

(4)主訴: 血尿が8例と最多で次いで熱発が6例、尿混濁が5例、腰痛が5例であり本症に特異的な症状は報告されていない。

(5)診断: Table 1 に示したように、X線検査にて本疾患が疑われたり診断された症例は29例中17例であり、特に片側性の症例では21例中10例と低くなっている。その原因としては本症に高率に合併する尿路結石や慢性腎盂腎炎および二次的な腎盂尿管移行部狭窄などにより、患側の腎機能が著明に障害されている例が多いためDIPだけでは本症の診断は困難であることや、またRPでも自験例のような典型的な multiple small punched-out defects や scalloping of the ureteral margins といった所見が必ずしも認められるとは限らず、この場合に片側性の症例では腎盂尿管腫瘍との鑑別が困難になる点があげられる。近年尿管結石の治療の目的で普及しつつある尿管鏡は、X線的に尿管腫瘍との鑑別が困難な症例の確定診断に有効であると思われ、今後そのような報告例が増加することが予想される。

(6)治療: 本邦症例の治療内容は29例中、腎もしくは尿管摘除を施行されたものが16例を占めている。そのうち腎もしくは尿管腫瘍の術前診断のもとに手術を施行し、術後の病理組織学的検査にて本症との診断が確定されたものは8例である。

次に化学療法施行例は8例報告されている。本疾患に対する化学療法の効果は本邦ではまだ症例数も少なく、長期追跡報告例も認められないため明らかではないが、Fierke は5年の経過の後に嚢胞数の減少した1例と、7年の経過の後に全く変化の認められなかった1例の計2例を報告している⁶⁾。しかしながら Richmond⁶⁾ は本疾患の経過観察中に二次的に腺癌の発生した1例を報告しており、また本邦においても、膀胱腫瘍の合併例が報告^{7,8)}されていることより、化学療法を施行する際には定期的な尿細胞診やX線検査などの施行が必要であると考えられる。今回われわれが経験したようなX線的に本疾患の診断が容易であり、しかも片側性で患側腎機能が著明に低下している例では腎尿管全摘除術が第一選択であると思われる。

結 語

57歳男性にみられた嚢胞性尿管炎の1例を報告するとともに、本邦報告29症例に対する考察を加えた。

本論文の要旨は、1985年12月6日、第117回日本泌尿器科学会関西地方会で発表した。

Table 1. 囊胞性腎盂尿管炎本邦報告例

報 告 者	症 例	主 訴	患 側	術 前 診 断	治 療
1. 桐山	1968	61歳 ♀	左腎部仙痛	両 両側囊胞性尿管炎、囊胞性膀胱炎、結石	左尿管切石術+生検
2. 田村	1969	66歳 ♀	頻尿、残尿感、尿混濁	左 左尿管腫瘍	左腎尿管全摘除術
3. 井上	1970	69歳 ♀	肉眼的血尿	両 両側囊胞性腎盂尿管炎、膀胱癌	膀胱部分切除術+膀胱尿管新吻合術+生検
4. 清島	1970	64歳 ♂	肉眼的血尿	左 左腎尿管膀胱の乳頭腫症	膀胱部分切除
5. 長田	1971	62歳 ♀	浮腫、高血圧、血尿	左 左腎盂尿管腫瘍	腎尿管全摘除術
6. 吉田	1971	53歳 ♀	尿混濁	両 両側囊胞性尿管炎、左結石性膿腎症	左腎尿管全摘除術
7. 浅野	1971	47歳 ♀	発 熱	左 左囊胞性尿管炎、左腎結石	左腎尿管摘除術
8. 中島	1971	61歳 ♀	無症候性血尿	右 右尿管腫瘍、右萎縮腎	右腎尿管摘除術
9. 徳原	1973	52歳 ♀	発熱、尿混濁	左 左慢性腎盂腎炎、左囊胞性尿管炎	左腎摘出術
10. 徳原	1973	37歳 ♀	腰 痛	左 左腎結石、感染性水腎症	左腎摘出術
11. 徳原	1973	43歳 ♀	腹 痛	左 左腎結石、左尿管腫瘍	左腎摘出術
12. 小坂	1973	66歳 ♀	弛張熱	右 右尿管結石、右萎縮腎、囊胞性膀胱炎	右腎尿管全摘除術
13. 井村	1975	61歳 ♀	全身倦怠感、食欲不振	両 両側囊胞性尿管炎	化学療法
14. 森	1976	51歳 ♀	尿混濁	右 右腎盂尿管腫瘍	右腎尿管全摘除術
15. 森	1976	63歳 ♂	排尿困難、肉眼的血尿	左 左腎盂腫瘍	左腎尿管全摘除術
16. 大北	1976	51歳 ♂	左腎部疼痛、尿混濁	左 結石、水腎症	左腎摘除術
17. 柳沢	1978	41歳 ♀	肉眼的血尿	右 右腎盂尿管腫瘍	右腎尿管全摘除術
18. 若月	1979	60歳 ♀	発熱、左側腹部痛	左 左腎結石、左慢性腎盂腎炎、左囊胞性尿管炎	左腎尿管摘除術
19. 若月	1979	60歳 ♀	右腎結石の精査	左 右腎サンゴ状結石、左完全重複腎盂尿管、左囊胞性尿管炎、左膀胱尿管逆流症	右腎切石術+化学療法
20. 落司	1980	69歳 ♂	全身倦怠感、不完全尿閉	両 両側囊胞性腎盂尿管炎	化学療法+腎瘻造設
21. 工藤	1980	49歳 ♀	左側腹部痛、発熱	両 両側囊胞性腎盂尿管炎	化学療法
22. 高橋	1981	65歳 ♂	顕微鏡的血尿	両 両側囊胞性腎盂尿管炎	生検+化学療法
23. 井上	1982	59歳 ♀	全身倦怠感、発熱	両 両側水腎尿管症、左腎盂結石	両側尿管皮膚瘻
24. 河	1982	52歳 ♂	高血圧	左 左囊胞性腎盂尿管炎	化学療法
25. 河村	1982	70歳 ♀	DIPで異常陰影	左 左囊胞性腎盂尿管炎	化学療法
26. 北村	1983	63歳 ♀	発 熱	左 左腎杯憩室結石、左囊胞性尿管炎	腎杯憩室切除術+生検+化学療法
27. 北見	1983	77歳 ♂	頻尿、肉眼的血尿	左 左多発性腎囊胞、左萎縮腎、左囊胞性腎盂尿管炎	左腎尿管摘出術
28. 米田	1986	68歳 ♀	右水腎症の精査	右 右不完全重複腎盂尿管、右囊胞性尿管炎	尿管尿管吻合術
29. 自験例		57歳 ♂	左腎結石の精査	左 左腎結石、左無機能腎、左囊胞性尿管炎	左腎尿管全摘除術

文 献

- 1) Morgagni JB: De sedibus et causis morborum per anatomen indagatis libriquinque. William Cooke Translation, London, Longman, 1882, Vol. 2, pp. 316-319, 411-412. 文献2)より引用
- 2) Askari A and Herrera HH: Pyeloureteritis cystica. Urology **16**: 398-399, 1980
- 3) Stirling C and Ash JE: Chronic proliferative lesion of the urinary tract. J Urol **45**: 342-360, 1941
- 4) 桐山畜夫, 多嘉良稔: Ureteritis Cystica—その1例と文献的考察. 西日泌尿 **14**: 726-732, 1968
- 5) Emmett's Clinical Urography 4th Edition in page 875 cited by Witten. D.M., Myers, G. H. and Utz, D.C., Saunders Co., Philadelphia, 1977
- 6) Richmond HG, Path MC and Robb WAT: Adenocarcinoma of the ureter secondary to ureteritis cystica. Br J Urol **49**: 359-363, 1967
- 7) 井上武夫, 広川 信, 鈴木彦人: Ureteritis cystica の1例. 日泌尿会誌 **61**: 93-94, 1970
- 8) 高橋茂喜, 北川龍一, 加納勝利: 嚢胞性腎盂尿管炎の1例. 臨泌 **35**: 1091-1095, 1981

(1987年4月3日受付)